

性同一性障害や同性愛

LGBTへ理解を

岡山で教職員研修 当事者ら訴え

京山中学校(岡山市北区津島京町)で21日、性同一性障害や同性愛などの性的少数者「LGBT」への理解を深める教職員研修があり、自助グループ「プラウド岡山」のメンバー4人が当事者の生徒への配慮を呼び掛けた。

県教委、同市教委によると、LGBTに関する教職員研修は県内で珍しいという。

約40人が聴講。グループ代表で同性愛者の女性(51)が、LGBTと自覚している人は人口の5〜7%に上るとのデータを挙げつつ「学校でも差別や偏見を恐れて隠しているのが現実」と説明。20代の性同一性障害者2人は中学時代を「望む性別と異なる髪型や制服を強いられ、毎日苦痛だった」と話す一方、

「理解のある先生との出会いに救われた」と振り返った。

支援者の女性(53)は、小学校教師だった自らの経験を踏まえ、「性的少数者を苦しめる言動を無意識にしていた。身近にLGBTがいると意識してほしい」と訴えた。

文部科学省は4月、



LGBTの自助グループのメンバー(手前右)から話を聞く教職員

LGBTの子どもへの職員一人一人の適切な国の小中高校に出してきめ細かな対応と、教理解を求める通知を全いる。(大橋洋平)